



「副鼻腔炎の予防はどうしたらいいの？」

8月になりました。6月から始まった猛暑に、やっと慣れてきた感じがしますね。暑い夏にもかかわらず、風邪症状の患者さんが多いです。風邪を引いて少ししてから、副鼻腔炎症状が出現している方もたくさんいらっしゃいます。そもそも副鼻腔炎になりやすい、という人はけっこうたくさんいるようです。鼻のつくり（骨格や鼻の粘膜腫脹）がひとつの大きな要因です。そのほかには、もともと慢性的にアレルギー性鼻炎がある人、風邪を引きやすい人が挙げられます。ほとんどの場合は急性副鼻腔炎で、風邪の延長線上にある急性疾患です。抗菌薬や抗炎症薬を短期間服用すれば、数日～2週間くらいで治ります。数週間～数ヶ月単位で鼻汁鼻閉、後鼻漏が続いたり、鼻の中にポリープができてしまう場合は慢性副鼻腔炎と診断します。この場合は長期間の薬物治療や手術治療が必要になります。

副鼻腔炎の予防として、まずは風邪を引きにくい身体を目指したり、アレルギー性鼻炎を日頃から治療しておくことがあげられます。そのほかに効果的なのは、鼻洗浄（鼻うがい）です。生理食塩水を用いた鼻うがいでアレルギーやウィルスを定期的に洗い流すと、副鼻腔炎の予防になります。副鼻腔炎になってしまっても、鼻洗浄をすることで膿性鼻汁を排出させ、鼻腔内の換気を改善させることができ、治りが早くなります。鼻うがいについて説明を聞きたい方は医師やスタッフにお尋ねください。



オギジビ豆知識

今年度はこちらのコーナーで院内に展示している絵画作品について解説していきます



「光の小路」作：桜井敬史

イタリアの南部、マテラという街の一角をモチーフに描かれています。夏のある日、少し涼しい小路を歩いていると、開けた視界の向こうに青い山々が見えてきました。ちらちらと舞う木漏れ日が、なんだか楽しい気分にさせてくれます。木々の緑がさわやかに映え、石造りの壁や通路の質感がリアルで、なんだか触りたくなってしまう。日本画の伝統的な画材だけを用いて、夏のヨーロッパの明るくからっとした空気を見事に表現している、素敵なお作品となっています。

オギジビの輪

- お友達・お知り合いに、是非おぎはら耳鼻咽喉科をご紹介します。
- 神奈川県では珍しい、言語聴覚士のいる耳鼻咽喉科です。難聴や補聴器については大学病院レベルの診察・検査体制を整えています。
- ちょっとした不安の解消から専門的な診察まで、幅広く行っています。